

医療施設長 様

鹿児島市医師会臨床検査センター
センター長 上ノ町 仁

新規実施項目のお知らせ

日頃より当臨床検査センターをご利用いただき、誠にありがとうございます。
この度、委託先の株式会社エスアールエルより新規実施項目の案内がありましたので
お知らせいたします。
今後とも当臨床検査センターをご利用賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

記

■受託開始日 2023 年 1 月 4 日 (水)

■新規実施項目内容

| 検査項目・コード JLAC10 | 採血量 (mL) | 容器 | 提出 温度 | 所要 日数 | 実施料 判断料 | 検査 方法 | 基準値 (単位) | 備考 |
|--|-------------|----------------|----------|----------|------------|-------------|---------------------------|-------|
| ガストリン (RIA PEG法) 2546800 (5914) 4G040-0000-023-002 | 採血量 3.0 | 生化学 茶色 A | 室温 | 5~11 | - | RIA PEG法 | 60以下 (参考値) (pmol/L) | 下記参照* |

* 空腹時に採血してください。

* 未遠心の検体はそのまま室温でご提出ください。遠心分離する場合は採血後、冷蔵にて血液の凝固を確認し、速やかに低温 (4℃) にて遠心分離してください。分離した血清を保存する際は、必ず4時間以内に凍結保存してください。

※ 別途項目コードのご案内を送付いたします。ご施設様でご利用の電子カルテメーカー様へ対応いただくよう、ご連絡をお願いいたします。

● ガストリン

ガストリン産生腫瘍の診断補助に有用な検査です。


ガストリンは、胃幽門粘膜および十二指腸粘膜に存在するG細胞で産生される分子量2,096の直鎖ペプチドで、17個のアミノ酸から構成される消化管ホルモンです。主に腎臓で代謝され尿中にはほとんど排泄されませんが、生理活性のないN端部分ペプチドは、腎臓で代謝されず尿中に排泄されます。

血中ガストリン濃度は、胃酸分泌機能の背景因子を調べる検査の一つであり、胃酸分泌機能の測定と併せて行われます。特に、Zollinger-Ellison症候群（ガストリノーマ）を代表とするガストリン産生腫瘍をはじめとする種々の疾患で高値を示し、消化器異常の鑑別や病態の把握にも用いられます。

▼疾患との関連

ガストリノーマ
Zollinger-Ellison症候群

▼検査要項

| | |
|-----------|--|
| 検査項目名 | ガストリン (RIA PEG法) |
| 項目コード | 2546800 (5914) |
| 検体量 | 採血量 3.0mL  血清 0.7 mL |
| 容器 | 生化学 茶色 A |
| 所要日数 | 5~11 日 |
| 検査方法 | RIA PEG法 |
| 基準値 | 60以下 (参考値) (pmol/L) |
| 報告範囲 (単位) | 15未満、15~99900000 (pmol/L) |
| 桁数 | 有効3桁、整数8桁、小数0桁 |
| 検査実施料 | なし |
| 判断料 | なし |
| 備考 | 空腹時に採血してください。 遠心分離する場合は採血後、冷蔵にて血液の凝固を確認し、速やかに低温(4℃)にて遠心分離してください。血清を保存する際は必ず4時間以内に凍結保存してください。 |

●研究検査

当社の通常受託項目とは異なり研究を目的とした検査であるため、基準値ならびに臨床的意義が明確にならない項目もございますので、内容をご理解のうえ、ご依頼いただきますようお願い申し上げます。

●参考文献

河本 泉, 他: 日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌 33 (2) : 97~100, 2016. (臨床的意義参考文献)